

大腸カプセル内視鏡検査を受けられる方へ

【大腸カプセル内視鏡検査とは】

大腸内視鏡検査は、大腸の病気(ポリープ、腫瘍、炎症)の診断や、治療方針を決めるために不可欠な検査です。最近では大腸癌などの大腸の病気は増加傾向にあり、また、大腸ポリープや早期大腸癌に対する大腸内視鏡による発見や治療技術が著しく進歩しています。大腸カプセル内視鏡は、長さ31.5ミリ、直径11.6ミリで薬のカプセルのような形をしたものです。これを口から飲み込むだけで検査が出来ます。カプセルの小型カメラが内蔵されており、1秒間に最大35枚の撮影が出来ます。無線で大腸の画像データを送信して外部装置に記録し、その情報をコンピューターで解析します。カプセルは使い捨てなので、検査後排便とともに体外へ排出されます。

【検査のデメリット】

大腸カプセル内視鏡検査は、安全で苦痛を伴わない検査です。ポリープや腫瘍を認めなかった場合は、カプセル内視鏡だけで終了いたします。しかしながら、ポリープや腫瘍が見つかった場合に同時に組織検査やポリープ切除はできません。その場合は、後日大腸内視鏡検査が必要になります。当院では、検査を受けられる皆様に検査とそれによって得られる診断・治療上の利益や不利益についてよくご理解していただきたいと思っております。

【代替可能な検査】

大腸の検査は、上述の大腸カプセル内視鏡検査以外に、通常の内視鏡検査やバリウムなどの造影剤を用いた大腸X線検査(いわゆる注腸造影)があります。しかし、X線検査では異常を認めた場合に生検(上述)を行うことができません。通常の内視鏡検査では、肛門からカメラを挿入するため恥ずかしさやお腹の張りを伴うことがあります。

【検査の同意を撤回する場合】

いったん同意書を提出しても、検査が開始されるまでは、検査をやめることができます。やめる場合にはその旨をご連絡願います。

同 意 書

私は 大腸カプセル内視鏡検査の目的と方法について医師の説明および上記の記載事項を十分理解いたしました。ひうらクリニックで大腸カプセル内視鏡検査を受けることに同意します。この説明により、予定される検査および関連事項についてよく理解できましたので、検査の実施を申し込みます。

平成 年 月 日

患者さん氏名

印

ご家族氏名

印